



UQ-KU Project

九州大学 研究教育交流拠点

UQ-KU Project Newsletter

2016年4月

クイーンズランド大学-九州大学研究教育交流プロジェクト

ニューズレター 創刊号

UQ-KU の関係

UQ-KU 研究教育交流 プロジェクトについて

クイーンズランド大学 (University of Queensland: UQ) と九州大学 (KU) との実質的な交流活動を活発化するために、「UQ-KU 研究教育交流プロジェクト」が始まりました。

このプロジェクトにより、

1. 学術交流 (学部・大学院生交流、研究者交流、共同研究に基づく研究成果の発表と共著論文の掲載)
2. 教育交流 (講義、教育プロジェクト及び産学連携)
3. サポートサービス (連絡・広報、交換留学生支援)

事業が実施されます。

これらの事業は、九州大学とクイーンズランド大学の間で 1993 年に締結された覚書に基づいて実施されます。

九州大学について

九州大学は九大と呼び親しまれていますが、その歴史は 1903 年に遡ります。その年に福岡医科大学と名付けられ、その後 1911 年に、東京大学、京都大学、東北大学に続いて第 4 番目の帝国大学として九州大学が設置されました。



1923 年九州大学にて、
Albert Einstein 博士と Elsa 夫人

九州大学は国際的学術交流の長い歴史を有しており、最も著名な共同研究者の一人が Albert Einstein 博士です。

九州大学は福岡県内に 5 つのキャンパスを有し、学生数は学部生約 12,000 名、大学院生約 1,700 名で、教員は約 2,200 名、職員は約 4,000 名となります。

九州大学は研究に重点を置いており、日本の研究拠点大学トップ 8 に入っています。

九州大学とクイーンズランド大学間では 1993 年からの過去 21 年間にわたり覚書が結ばれてきていましたが、二大学間の交流は限られたものでした。

しかし近年、大学間の交流が活発になってきています。九州大学の卒業生でもある、クイーンズランド大学の野北和宏准教授が 2011 年に JSPS フェロー (日本学術振興会外国人特別研究員) として九州大学を訪問しました。

野北准教授は招へい教授として、学部生向けの「エネルギー材料」講演シリーズを 2012 年より担当しています。



2015 年 11 月 25 日、九州大学代表団が UQ を訪問しているようす。(左から順に) Jonathan Read さん (UQ)、秦絵里さん (九州大学国際部国際企画課長)、野北和宏准教授 (UQ)、渡邊五郎さん (九州大学国際部長)、渡邊公一郎教授 (九州大学副理事)、青木玲子教授 (九州大学副理事)、久保千春教授 (九州大学総長)、Joanne Wright 教授 (Vice President UQ)、Simon Biggs 教授 (Executive Dean Engineering UQ)、David Mee 教授 (UQ)、Jessica Gallagher 博士 (UQ)

クイーンズランド大学の Jonathan Read 氏も 2012 年より「工学倫理」についての講義を毎年行っています。

また、2013 年 11 月から 2014 年 2 月までの 3 ヶ月にわたり UQ の博士課程の元学生 Guang Zeng 博士が九州大学に研修生として滞在しました。UQ 側でも九州大学からの訪問を受け入れており、九州大学修士課程学生 1 名が研修生として半年間 UQ の機械鉱山学科で学びました。

加えて、九州大学から学部生 18 名が Q²PEC2015 に参加しました。これはクイーンズランド大学附属英語学校 (ICTE-UQ)における 5 週間の集中英語コースです。

九州大学で過ごした 1 ヶ月

滞在期間: 2015 年 10 月 13 日～2015 年 11 月 8 日

受け入れ先機関: 九州大学(福岡県)

受け入れ担当教授: 松村 晶(まつむら しょう)教授、工学研究院 エネルギー量子工学部門/超顕微解析研究センター

昨年、私は九州大学超顕微解析研究センターで 1 ヶ月間受け入れていただき、松村晶教授のもとで自分の実験を進めることができました。とても素晴らしく楽しい経験でした。超顕微解析研究センターには原子分解能電子顕微鏡 (ARM) が 2 台あり、九州大学には全部で 6 台もあるということを知り、驚きました。また、2 階分の高さがある巨大な超高压透過電子顕微鏡 (UHVTEM) を見たときは、衝撃を受けました。少なくとも透過電子顕微鏡の分野では、これほどに設備が整った大学や研究所は多くありません。私が実験試料の特性を分析するのに使ったのは、主に UHVTEM です。このような UHVTEM はオーストラリアでは使うことができないため、九州大学で私の実験課題を進めたいと考えました。最先端の設備が整った立派な研究センターで、松村教授のような世界的に著名な専門家の方々と研究できることに、期待で胸が膨らみました。

私は九州大学で、教員、技術職員、研究生の皆さんに大変お世話になりました。特に山本さんには、いつも深夜まで実験に付き合ってください本当に世話になりました。九州大学では、皆さんにとっても親切にしてくださいました。私は、朝夕 2 食付の学生寮に滞在していました。食堂の皆さんが、私の名前を数日で覚えてくださったときには驚きました。皆さんのおかげで、リラックスして過ごせました。九州大学での最終日、松村教授グループの皆さんが私のために送別会を開いてくださいました。送別会では、日本ならではのおもてなしで見送っていただきました。皆さんの温かいお心遣いがとても嬉しかったです。



1 ヶ月はあっという間でしたが、想像以上の成果を上げることができました。満足いく実験結果を得ることができましたし、世界的に著名な専門家の方々と共に研究を進める機会も得ました。日本の皆さんとの触れ合いや友情を深めることができました。九州大学で過ごした 1 ヶ月間、素晴らしい人たち、刺身やラーメンなどの美味しい日本料理を懐かしく思い出しています。学生や職員の皆さん、九州大学とクイーンズランド大学間の交流プログラムにぜひ積極的に参加してみてください。きっと大きな財産になります!

Yueqin Jerome Wu 博士

九州大学での体験記

滞在期間: 2015 年 11 月 2 日～2016 年 1 月 30 日

受け入れ先機関: 九州大学(福岡県)

受け入れ担当教授: 松村 晶(まつむら しょう)教授、工学研究院 エネルギー量子工学部門/超顕微解析研究センター

目的: 博士論文の主題である根本的な問いに対し、大きく寄与すると考えられる装置の利用。この装置はオーストラリアにはない。

私は、クイーンズランド大学大学院国際トラベルアワードと九州大学客員研究プログラムを利用して、日本の福岡県にある九州大学を訪れました。この大学は「九大」という呼び名でも知られています。訪問の目的は、博士論文の主題である根本的な問いに対し、大きく寄与すると考えられる装置を利用するためでした。この装置はオーストラリアにはないものです。

科学と工学分野のプログラムを強みの一つとする国立大学は日本に七校ありますが、九州大学はそのうちの一枚です。私の研究分野は固体水素貯蔵材料ですが、原子分解能電子顕微鏡や超高压電子顕微鏡などの最先端の設備を利用することで、研究の質は一段と高いものになっています。職員や学生の皆さんは非常に優しく、私の実験に対して協力的です。こうしたことが、論文の共著につながり、クイーンズランド大学と九州大学間の、既存の研究連携をさらに強化しています。

英語の使用環境は限られてはいますが、言葉の壁がある中でも、いろいろな手段を使ってうまく過ごすことができます。KUFSA(九州大学留学生会)は観光旅行、クリスマスパーティーなど、学生のためにさまざまな活動を企画しています。私の滞在中には、他の学生の皆さんと共に長崎県を旅行する機会がありました。キャンパス内では、ボランティアの人たちによる日本語の授業も行われています。これらは、留学生と日本人学生が互いに交流できる場となっています。

実験室で過ごす時間の他に、私の楽しみの一つは、福岡のいろいろな場所を探索することです。建築、美術、食べ物などの現代的な魅力のある福岡は、ぜひ訪れるべき素晴らしい場所です。マリンワールド海の中道(海の中道海洋生態科学館)、福岡市動植物園、ロボスクエア、福岡市美術館、太宰府天満宮など、興味深い場所が数多くあります。食べ物や家賃はブリスベンより比較的安く、公共交通機関の価格はほぼ同程度です。こちらでの経験は、非常に有意義で楽しいものとなっています。交流プログラムを利用して、他の学生の皆さんにも、ぜひ九州大学を訪れてほしいと思います。

Xuan Tran

詳細は本プログラムのホームページをご覧ください

<http://www.mechmining.uq.edu.au/uq-ku-project>